

30

25

20

15

10

土岐文庫

文庫17

W217

4

文庫 17
W217
4



利本

紅毛雜話卷之四

東都

森嶋中良

編輯

○瘦鷹の濫觴

西洋めく瘧疾が流行せり。濫觴は當時彼邦の人。南海にさる時大いある者なく。船に通ひて陸へ登り。行ひと凡て乞ひと里びと。其地人畜の大風吹ふ。臭穢鼻に撲拂ひまくらめて。



昭和六十年二月一日
吉良善慶氏贈
寄

01018 5195355

塔也。魚もあらまねば魚もねへ跑度。傍教も
斂視も。此よりて大魚の死もて漁び
しらかでわづる。魚もぬれにゆく北海のめにて其臭氣
みる。人者本國帰りて後大斂と發して
令仰ます。えり此病歐羅巴洲中一皆深也。是
般邦も瘧瘦傳へ。おうあくし。猶林童也。而
お治れ。毫橋世ふのまひゆ。

○阿羅々仙人附天竺の額

黒坊叢送の傳ふつ「トワニアラニの事」「トワニ」考
シ。叔迦文伝法体也。一道士也。阿羅々仙人と

り。又魏江石義集。阿羅漢と真人殊致。阿羅婆
ば大仙。羅勒迦藍を阿羅々迦魔羅。注。此
あり考ゆ。アラニハ神仙の事。ヒト称。諸
般王の宮殿小額とある文。東め磨く文殿也。
青龍城とある。南小磨く宮殿。アモトアヤカ城と
あり。ヒト称。紅毛の地名。以て考る。魏華
音。青龍也。仙書も錫蘭を考へ。古ノ。ナム
靈鷲山の條。アモトアヤカハ伯尔齊亞。以北也。アヤベ
す。アモトアヤカハ伯尔齊亞。以北也。アヤベ

○ おのあら

今歲ハ幼毛人洋れの日限延リ。あべ。加比丹
「ロベルデ」病氣。後て四月中旬まで滞留。ついに日本
附の者。今日小田原町の青市。初松魚の便。何種
サ。かどね鰯。ロベルデ。圓て云。誠ふまハ格外の重脛
あり。あう。我本山からも仰る事あり。鰯の生物
あ。隻。日本的小判を多額もひそく。鰯の生物
食。と同ト。半ウト。と云。とたう。鰯の雲名を
アリギ。彼邦の人。を多く。英味。と。平日の
候。も。隻。日本。の。重ウ。海。め。か。す。と。仰り。

○ カイマン

鰐の雲名「カイマン」又「コローユシル」。唱。吼。風。哇。の。送。
も。く。南海の肉。ト。產。と。海底。ト。湯。ア。陸。邊。と。き。う。
其形。名。の。わ。一。〔ヨレストン〕。ト。く。婦。人。汗。鱗。生。て。祀。と。九。州。
の。也。と。虎。の。婦。人。も。く。猿。猿。セ。チ。半。身。あ。り。其。產。所。必
一人。人。間。一。丈。ハ。鰐。あり。二十。辛。亥。東。リ。シ。鰐。毛。人。の。肉。
「カイマン」の。ふ。わ。り。一。体。長。体。あり。六。丈。八。く。そ。る。人
も。く。と。あ。ん。よ。大。人。の。身。〔ア。ナ。ク〕。と。く。ふ。と。う。事。そ。と。は。が。い。三
の。ふ。う。く。と。あ。う。ゆ。れ。と。う。人。「カイマン」と。口。身。あ。り。と。う。
半。と。あ。れ。ざ。れ。ば。海。中。か。く。難。船。の。時。「カイマン」と。あ。て

鱷之圖



助あり。ある時に家仗片端でまきて、櫻を
車。船の櫻である。是れかどもくわい。船に櫻て
魚をかぶせ。船中へ投して船底にとどめやうやく。舟役
よじる。風呂造りを「カイニ」の際を
ちる僧あり。若しくとれども時彼傍をみて呪咽
せしめし。人を抜いて、鰐にすきめり。切て多くの
鰐水とみゆび。其罠はわざうどく人哭。其
河水中。魚事く。生雲山土起る。天武天皇の御宇。
猪麻呂とく。人の狼狽圓の北の海遊び。猪
も。ひぐりき鰐のあゆ筋さら。父ハガと圓う

天子號び地を踊り。千五百もの神。仇に殺ひ
絶えん。まゝ仰ふ。時數百の鰐一の鰐を囲
繞て海面を浮ひ。猪麻呂やびて洋に拳を波
毒魚に刺す。その際れ和尙あやしく解散を。
かくて其怪に害ふ。かみの怪がゆく。とくの
犯人。ゆく能ひ。事あつて書付ぬ。梵語
あ。摩摩羅と。善見ゆ。鰐魚長さ二丈餘。四足有
體。よか。嵩めて利。鹿に禽てあらへ。そ
腰に齧て昂。斬。又殺ふ魚と。魏と名義集。載
り。田村西湖先生の家。此魚の小あらぬれ。某を

漫々と心地を。

○紅毛人の給金

諸州へ渡海にて過高も。紅毛人の給金はとくに車あり。船。縄。へ用ひの重浪が波して其船。ゼアラルの方か。後。徳川。備前めりて只。至。洋。帰帆のとく。有利。も。波をとく。り。病死。も。海中より溺死。も。甚。父の送麻を終て。業。洋。け。生。も。是。亡父の給金と。所。ゆて。ゆ。き。去。は。ふ。の話。

○レーウー

昂。獅。ふ。の。藝。流。か。ア。弗。利。加。洲。多く。產。と。百。獸。の王。と。稱。と。萬。獸。を。存。る。れ。ぞ。皆。匿。ふ。其。性。を。あ。く。極。喫。あり。教。あ。人。と。逃。を。行。り。達。く。人。を。え。ざ。る。時。却。て。行。車。迷。か。リ。新。の。事。と。車。行。者。い。よ。同。ケ。バ。ま。く。迷。れ。渴。く。世。熟。に。日。一。四。と。瘧。が。覆。と。ぬ。時。に。ゆ。け。り。ね。て。人。を。制。と。半。あ。く。す。時。に。越。洋。擲。わ。く。ゆ。れ。ど。將。要。か。く。息。す。人。を。換。か。半。ゆ。あ。く。と。る。ど。

○紅毛の画法。洞板の法

紅毛の画。ア。マ。ト。リ。畫。せ。り。凡。ば。道。所。ま。ぶ。者。初。ふ。男。女。は。貴。品。に。精。こ。ー。丈。ト。リ。赤。線。の。人。物。に。お。そ。入。

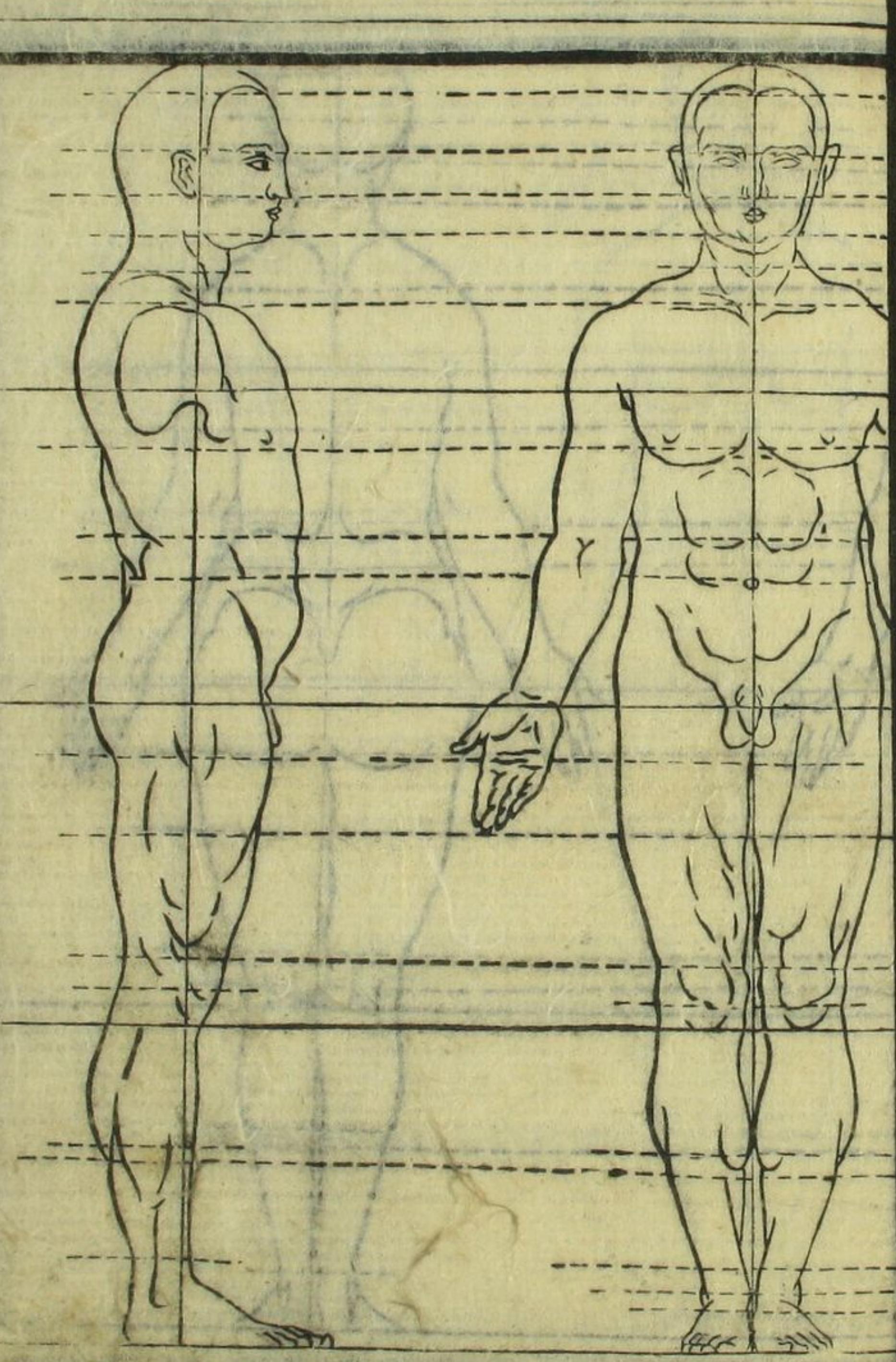
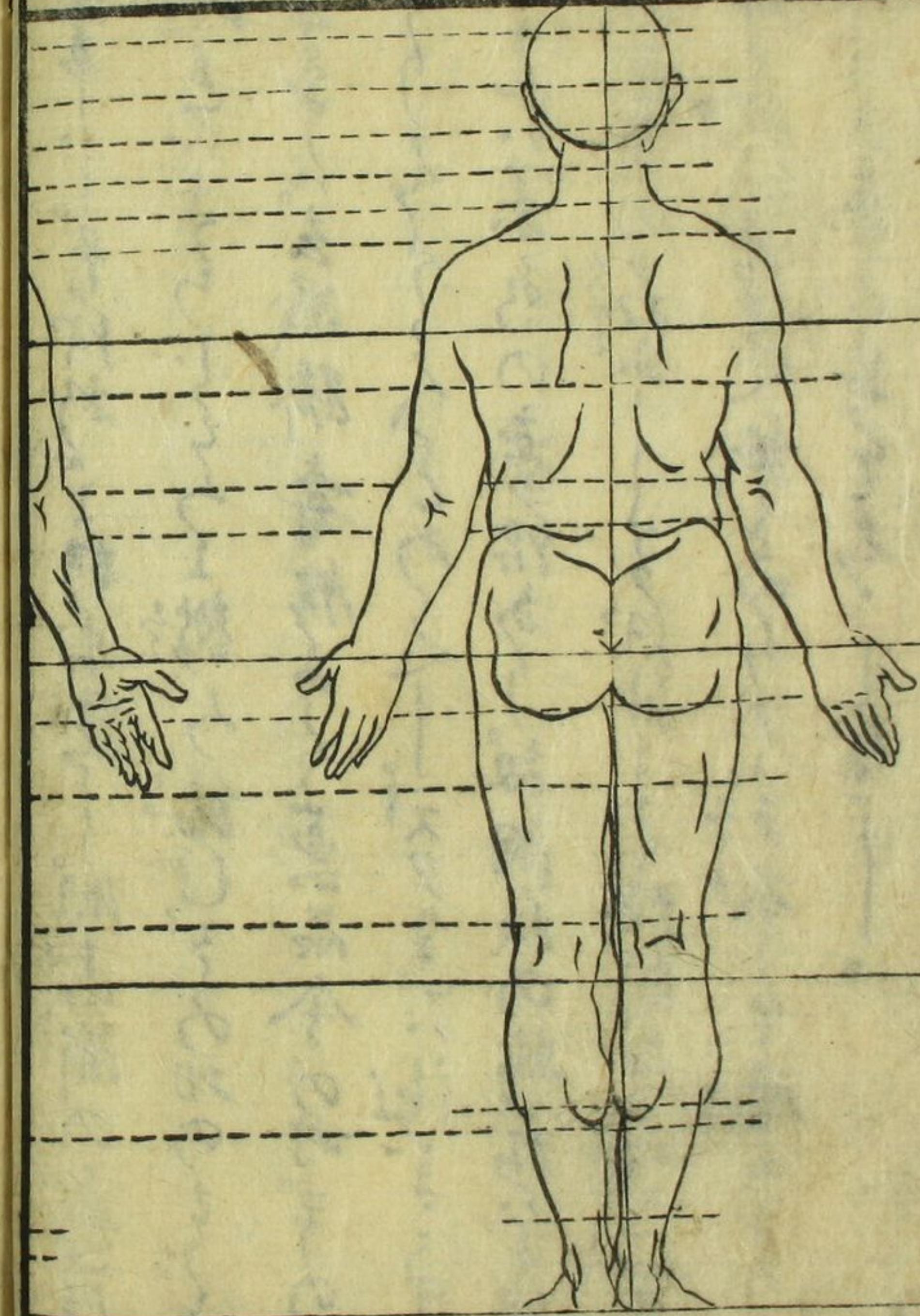
獅子之首



とて、あくまで衣被を穿てて不仕事でゐりう。下ふせと
画法へ「シキルデルブク」み勧め一二号汗摸写にて。娘車の人
は、看小屋と。書の手あく。シキルデル画ヲツク。板を隠す法。洞板
白端毛代赭石にてト画を附。下ふせと。所の具を
りつて筋毛。急にちよ。白端のとあれば必ず毎日功を響
ひき。下ふせと。ね毛勝つて絵。スカルキー元もす腐。茶と
紫葉も西洋も。製物。考究の本家より。洋
液汁。ふかを放きて。下ふせと。時。ごく。泡立
本。湯の下ふせ。良有りて。川流れ。其處業思
ふ事。下ふせ。毛穴れ。朽木のや。洞毛流の盡。注
きへと。下ふせ。鶴人鑄。その功のもう
とまも。去歲躊躇候。多く薬品令の時。その
あく。アソブ。人。とあく。スカルキー。流さう。
ワーテルハサウの妻宿あく。板洞板の挖り板。象
牙。麻角の。おわか。下ふせ。紗。眼目。塗邊
うく。拭い。高よく紙を。下ふせ。ト木。と。壓。下ふせ
う。下ふせ。逃して。あく。と。

男子身體之圖

年少のやうなあらうとよほおきう
細き不へ日うとんねんじー下告曰ト

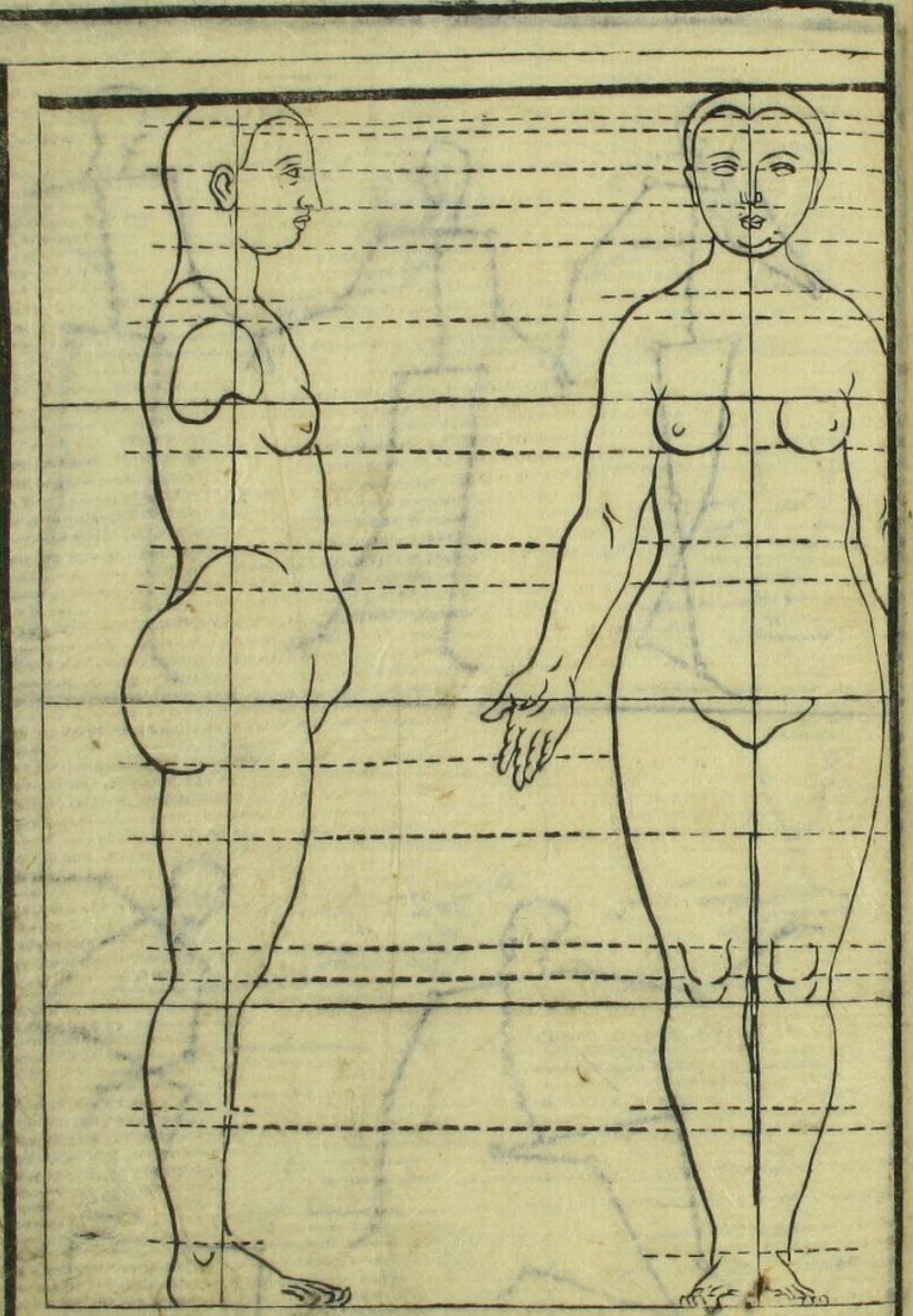
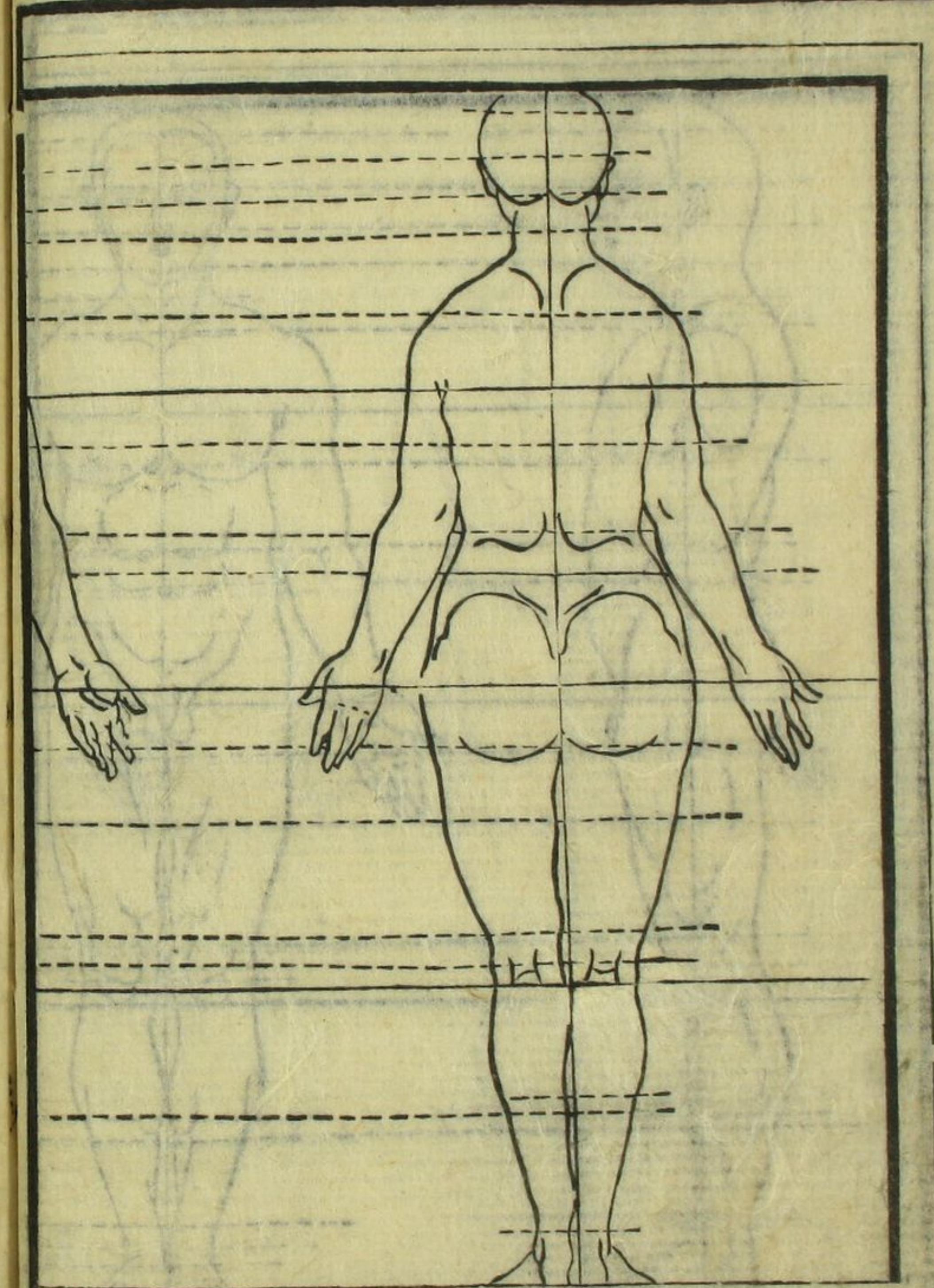


万象亭主人寫

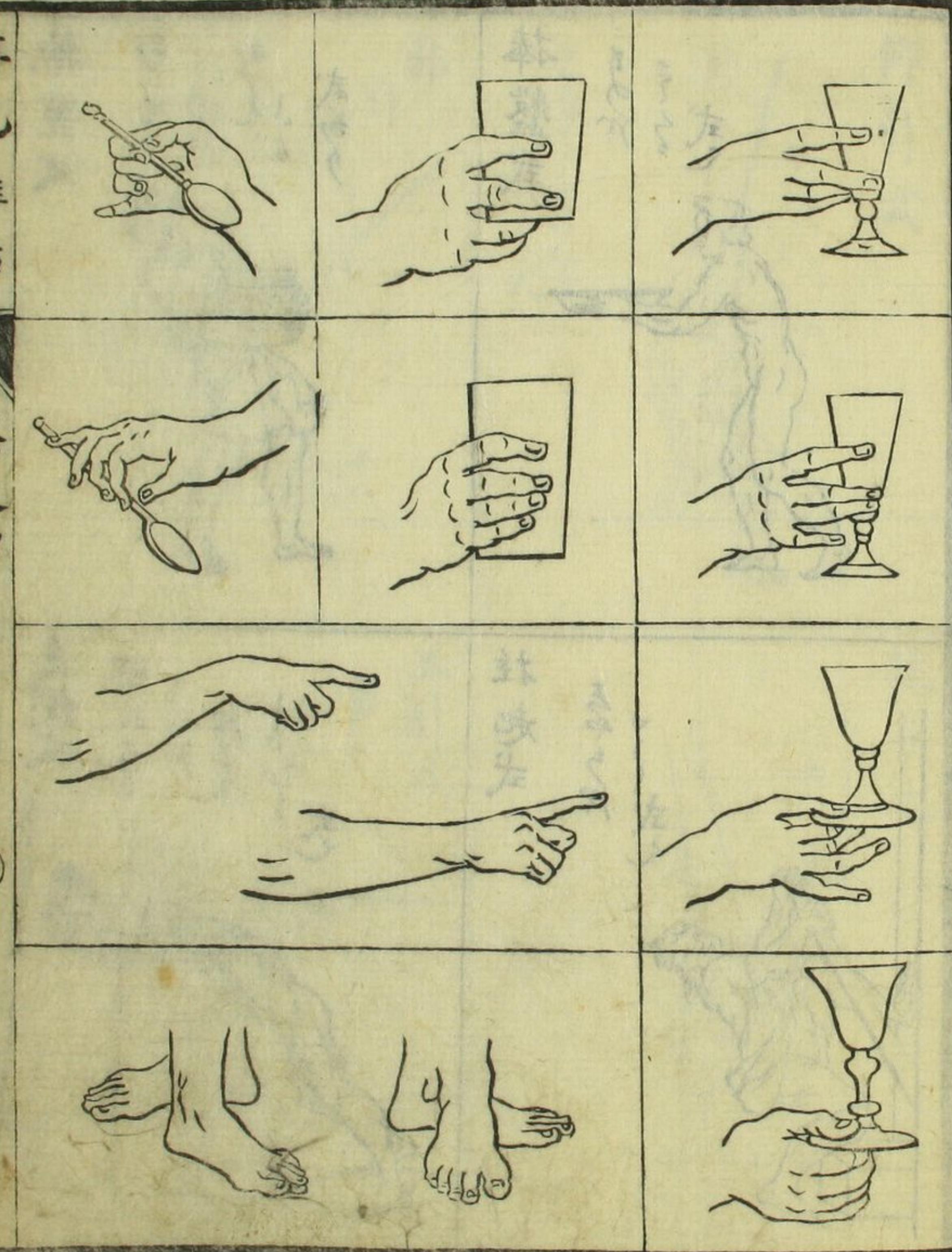
絵毛雜言

卷之四

婦人身體之圖



式之足手

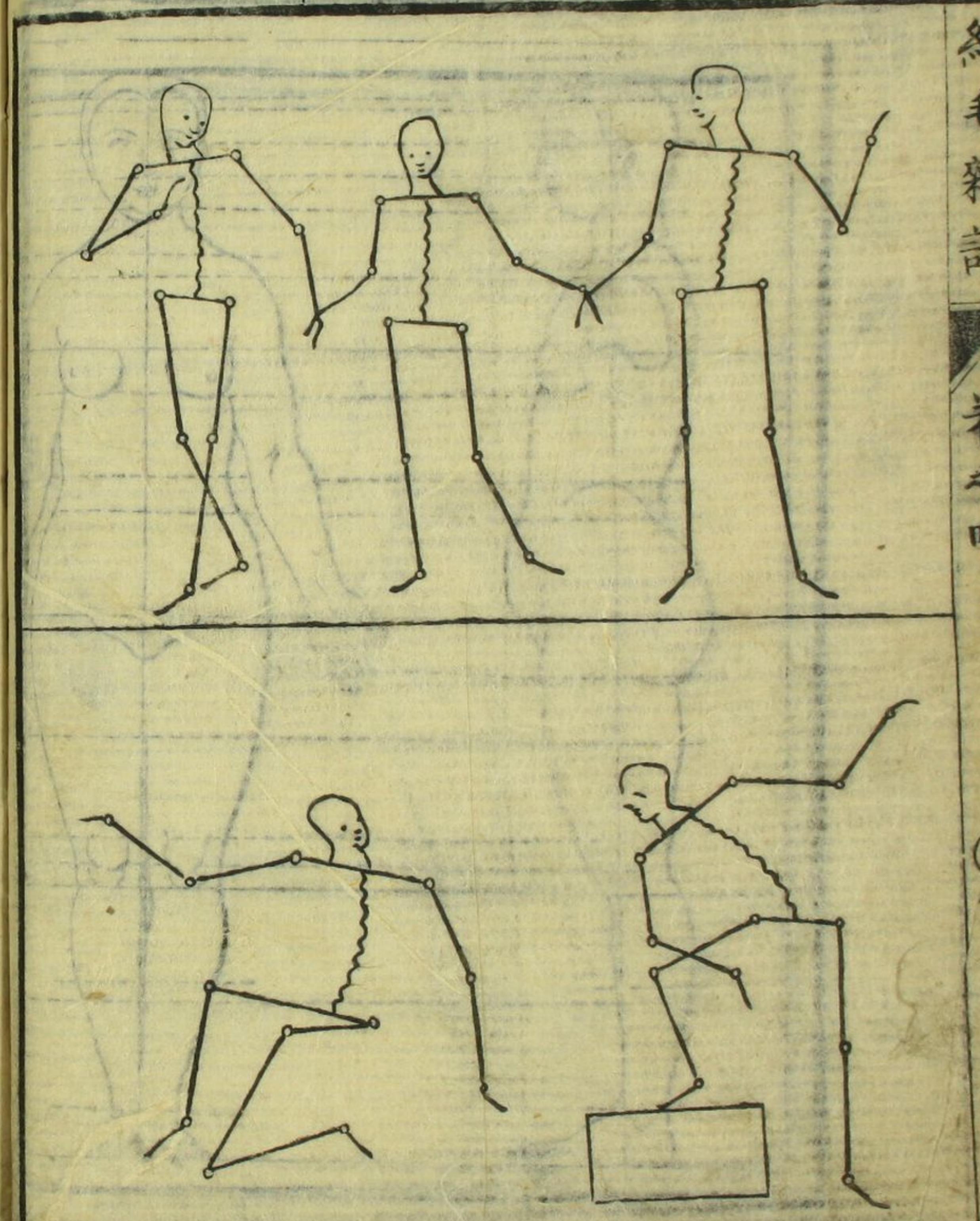


工之進古

卷之四

○上

式之筋骨



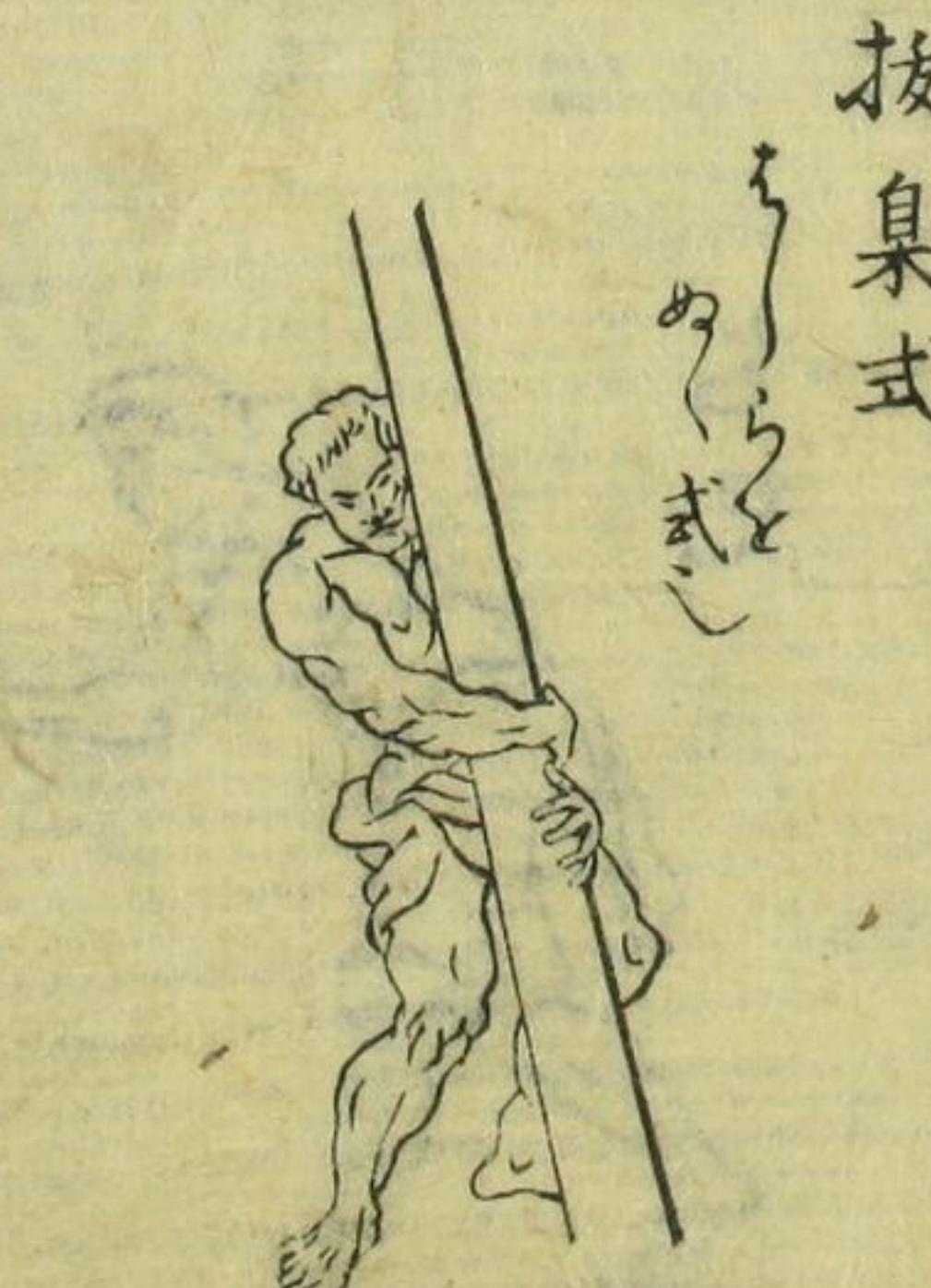
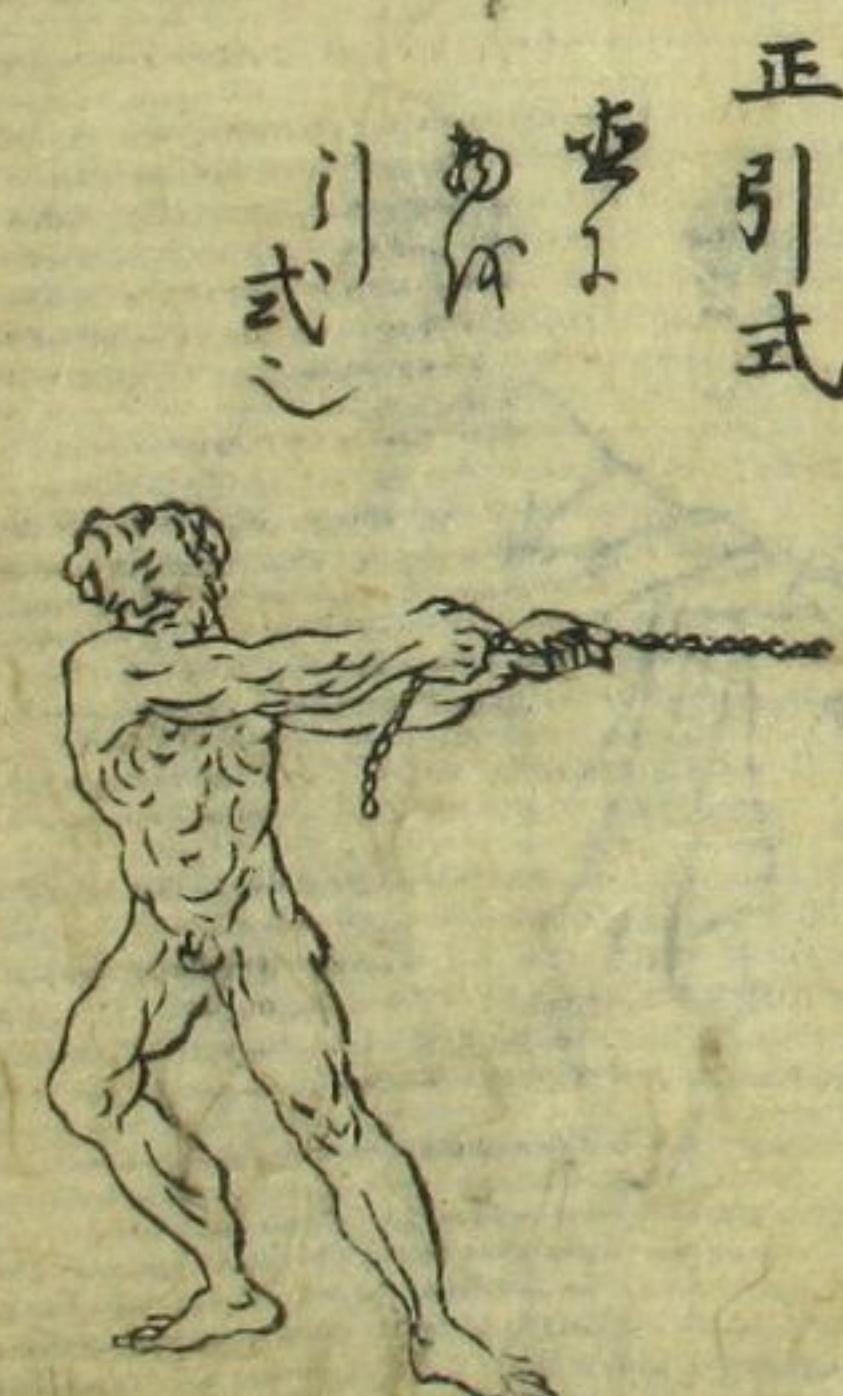
絵毛雜言

卷之四

式人之の動き活物が人



捧盤式
ひょうばん式



柱起式
ちゆうぎ式



双手持物式



（ほのめく）
（ほのめく）

斤手持物式



（ほのめく）
（ほのめく）

贈環圖



與璧圖



老鴉



嫖客

門闈

妓

嫖客

乞兒

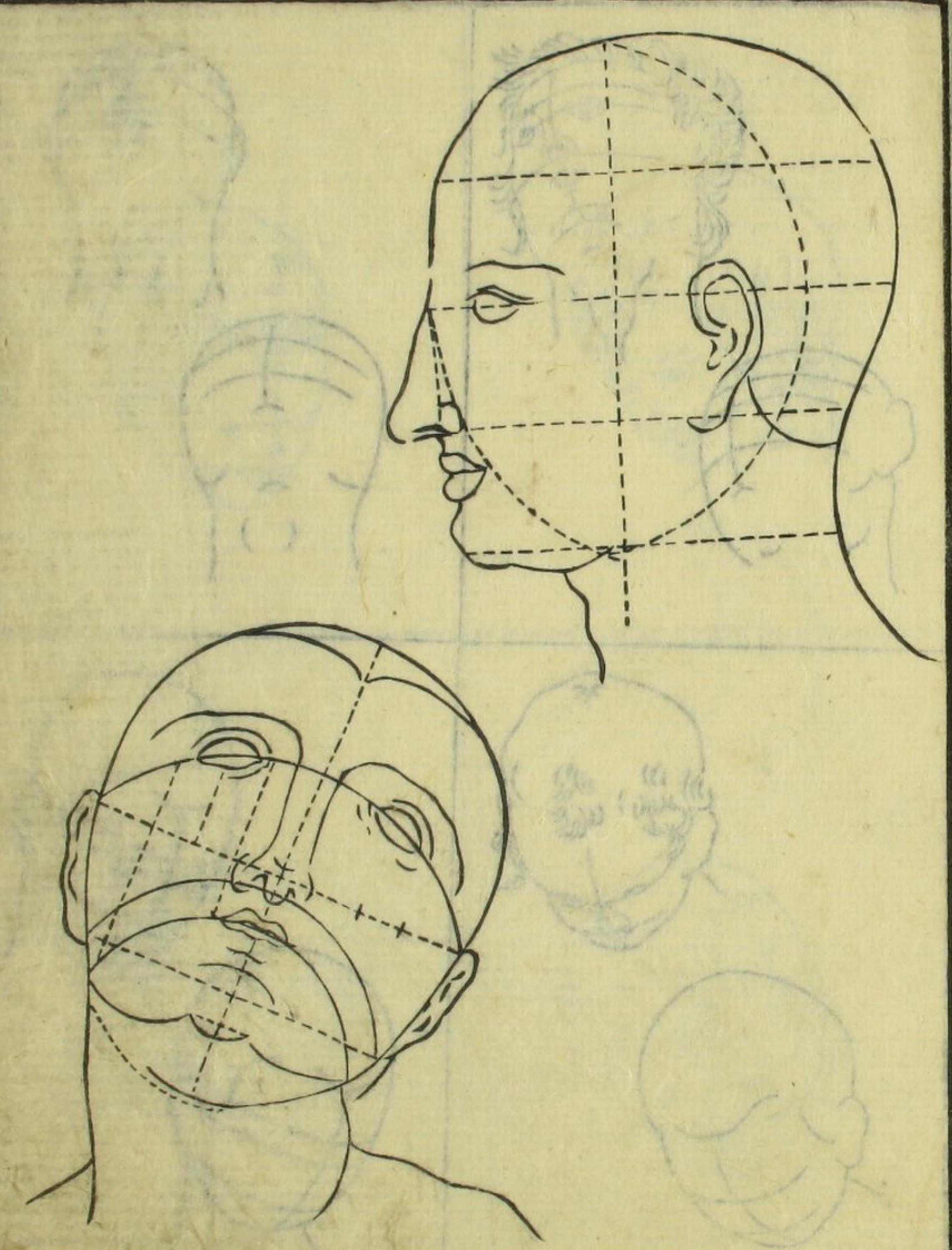
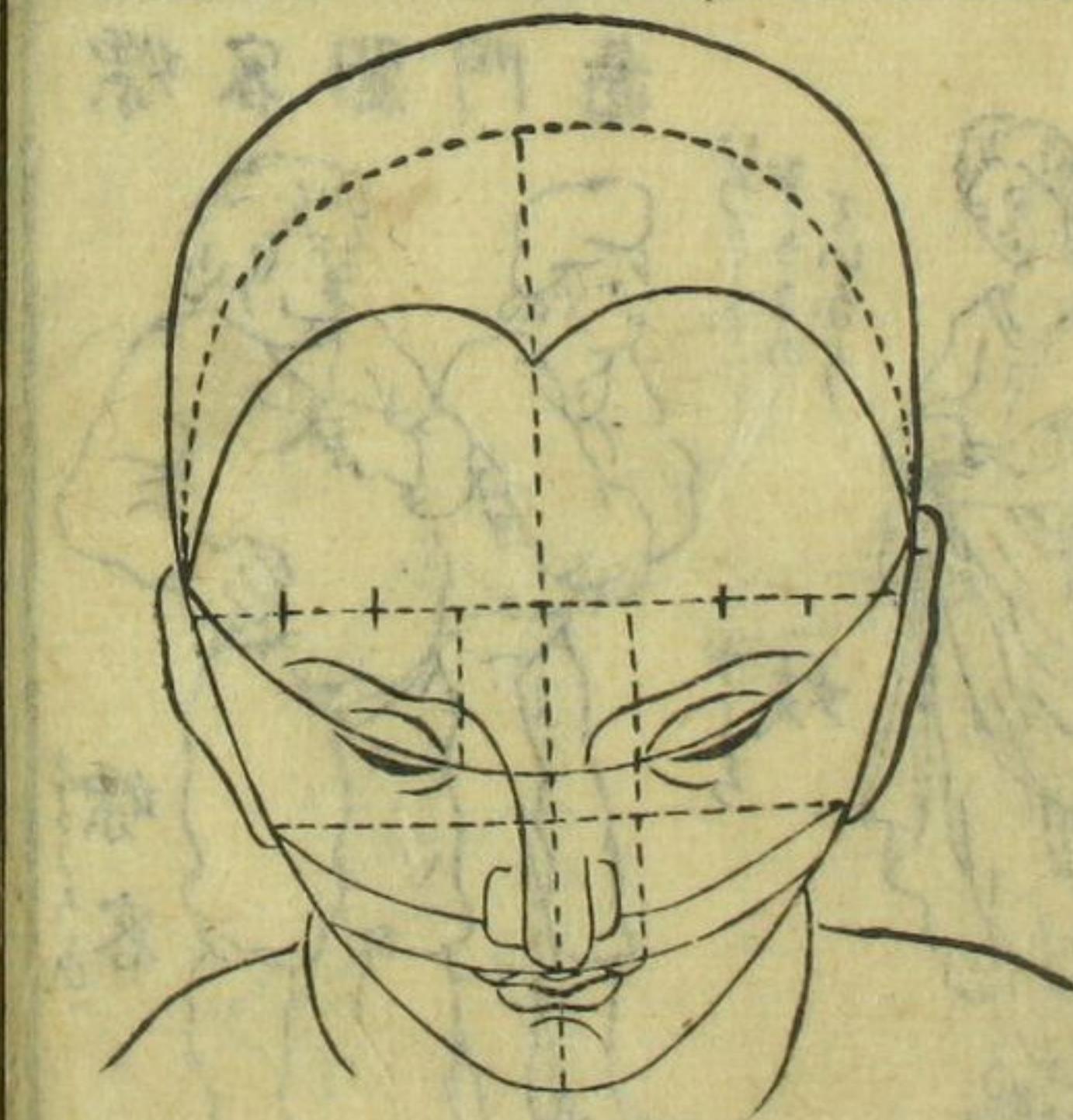
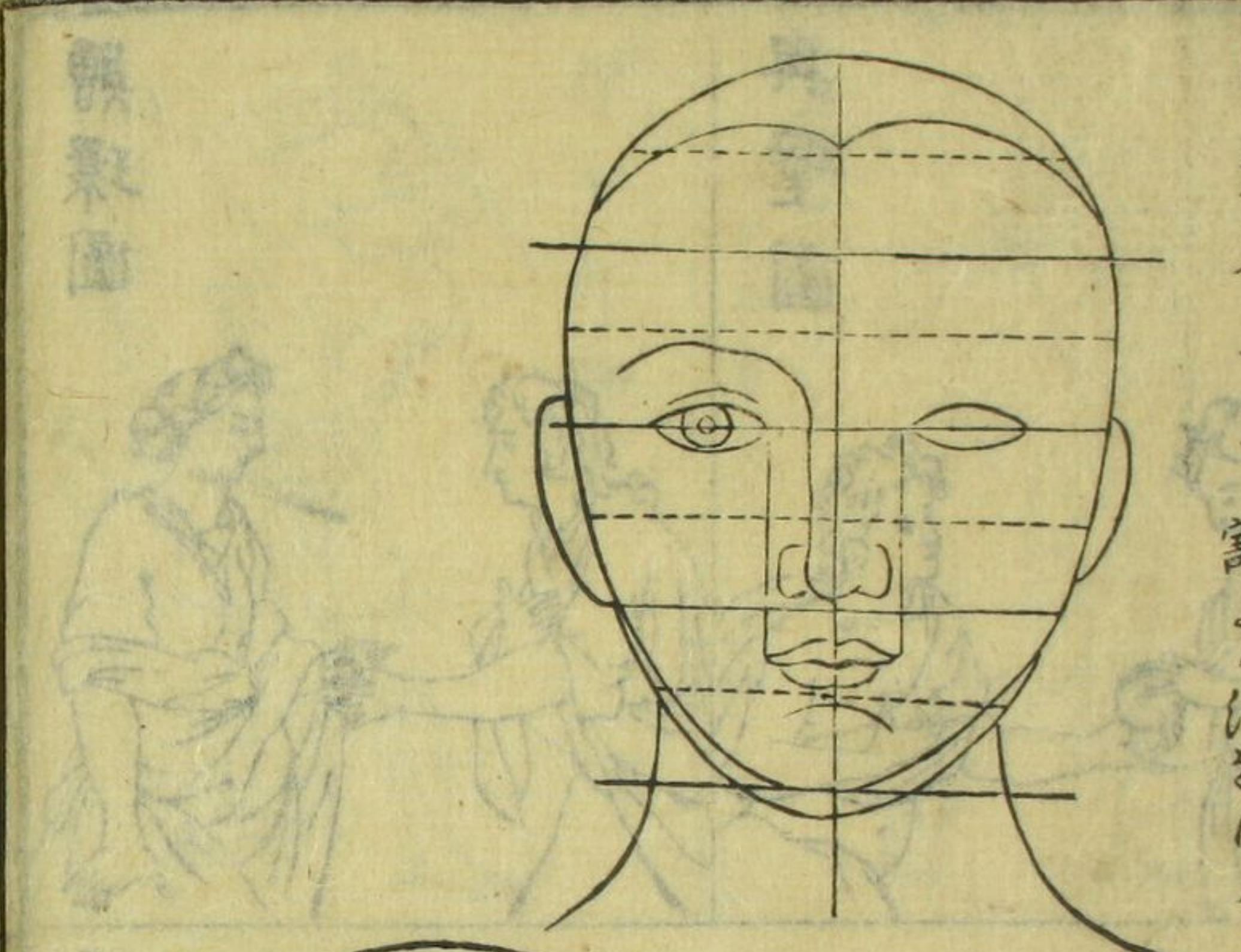


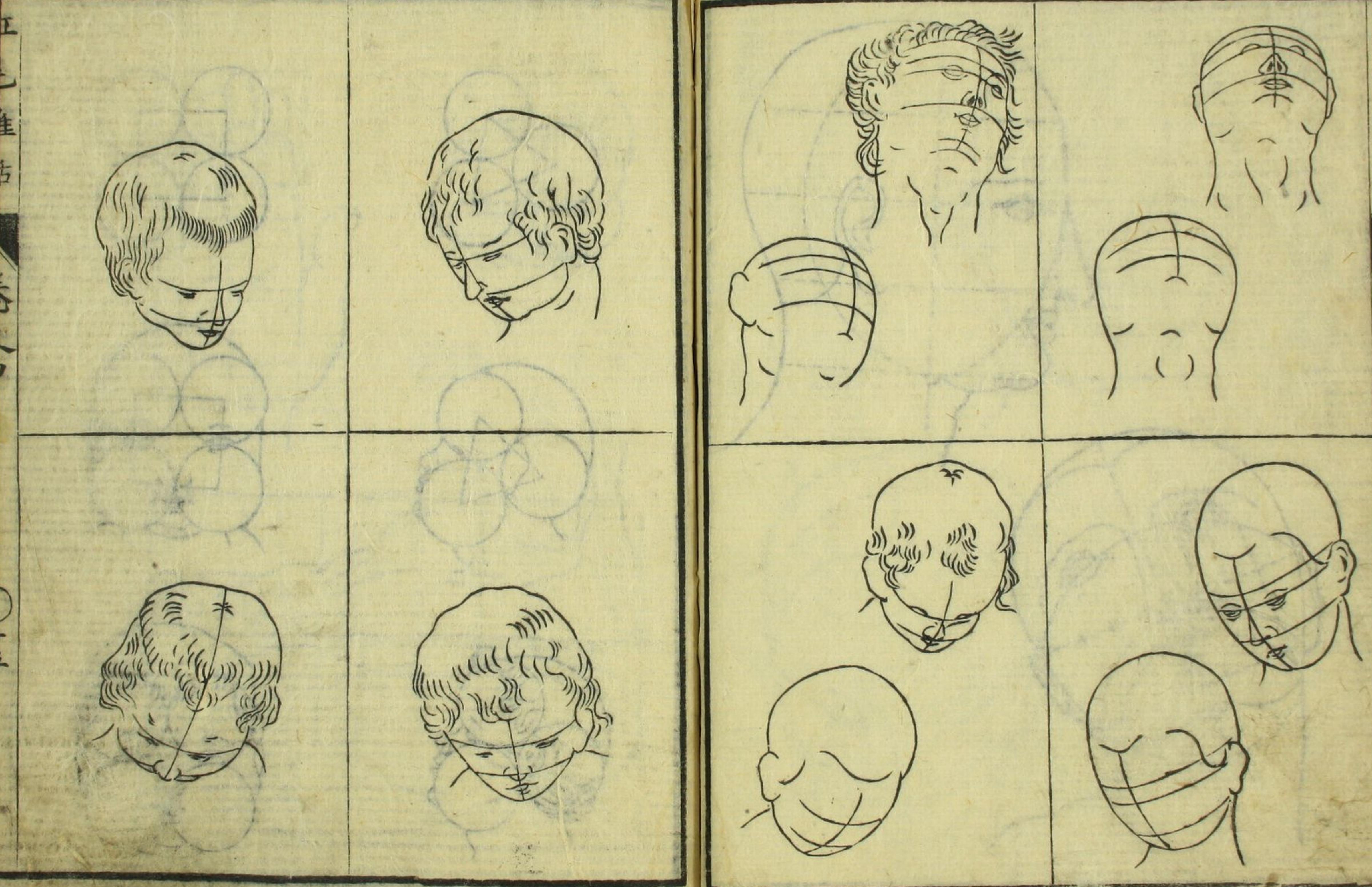
僧

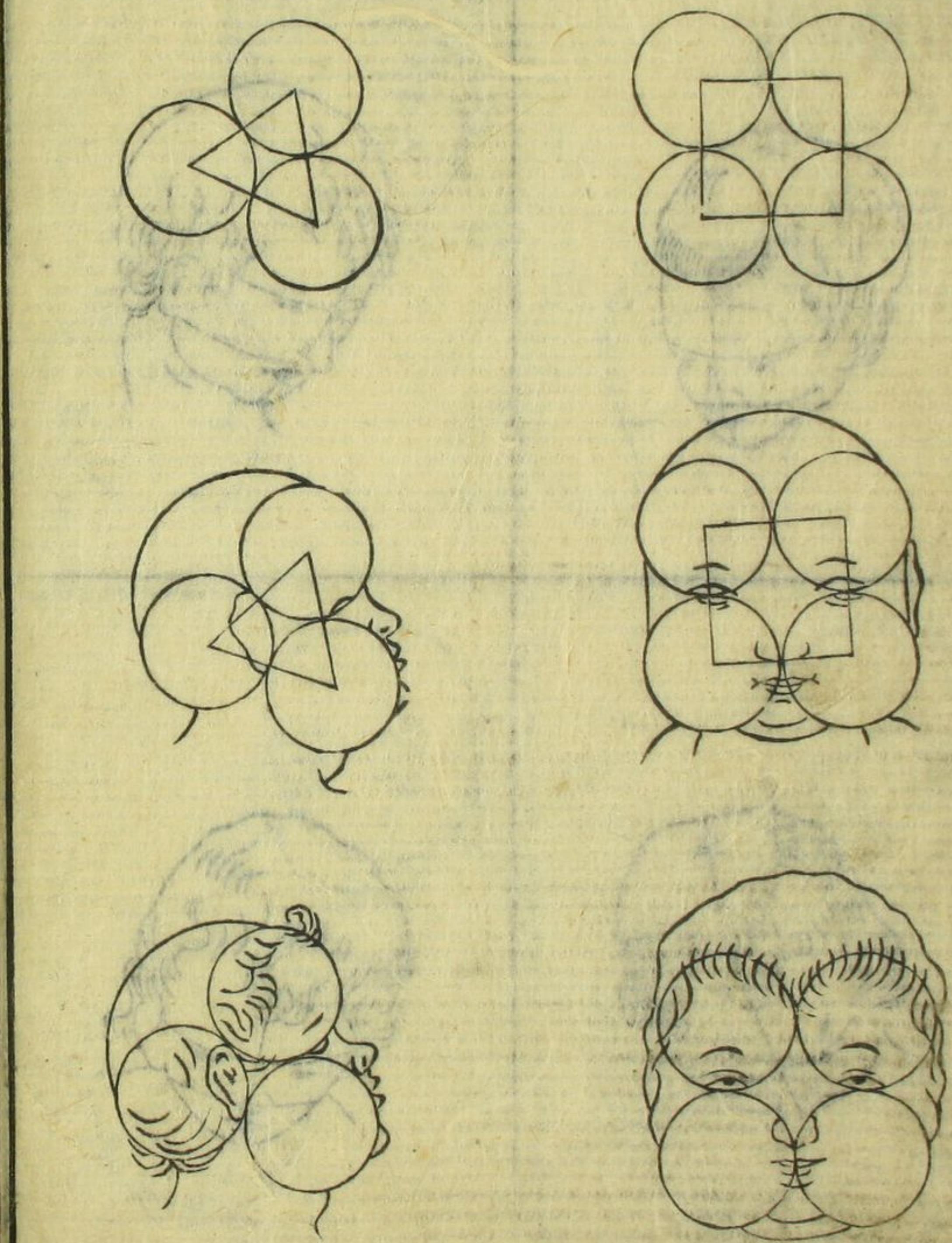
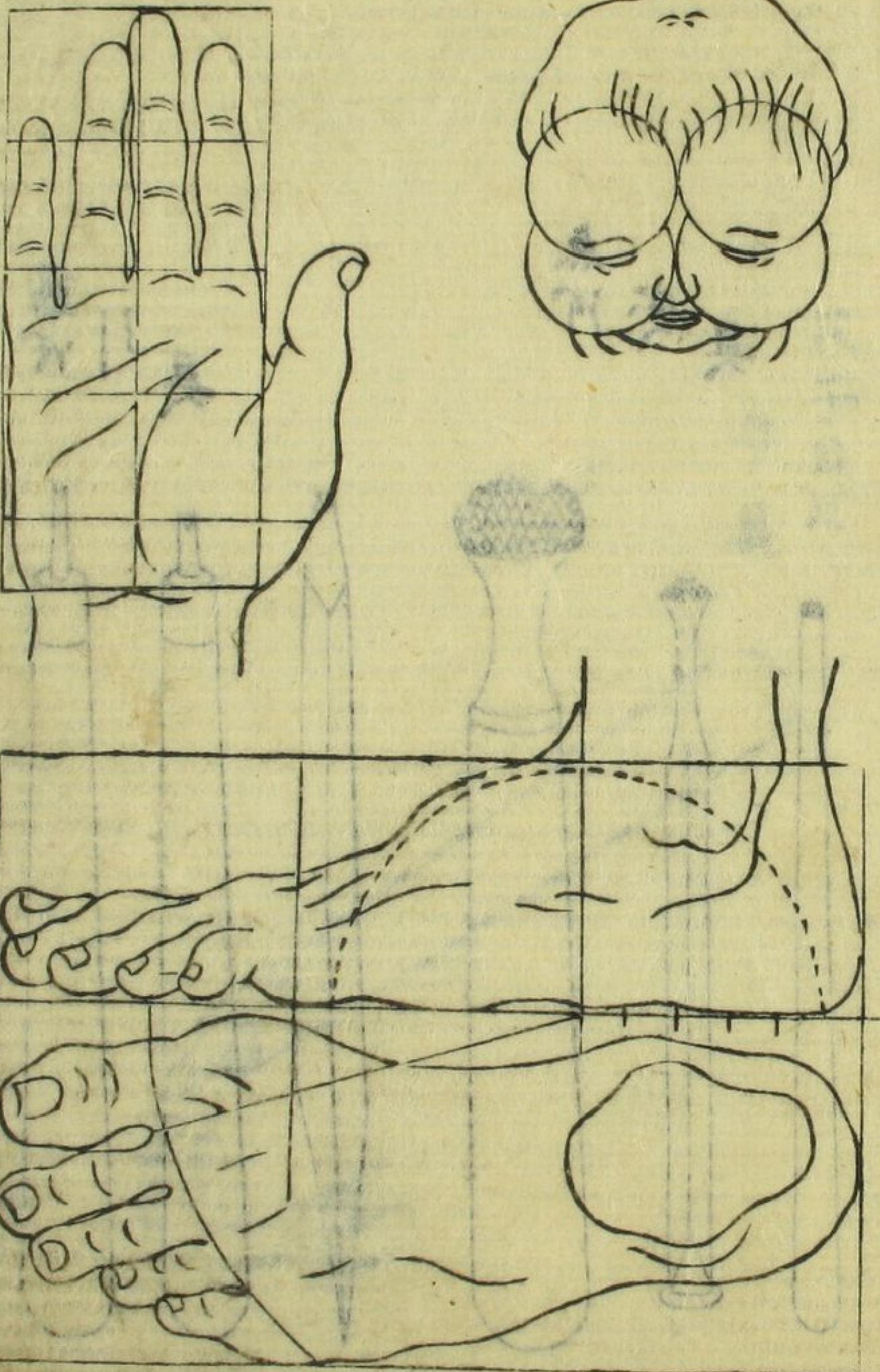


施乞圖

同異本之式
是八ヨリハ凸矩也
割之法勿





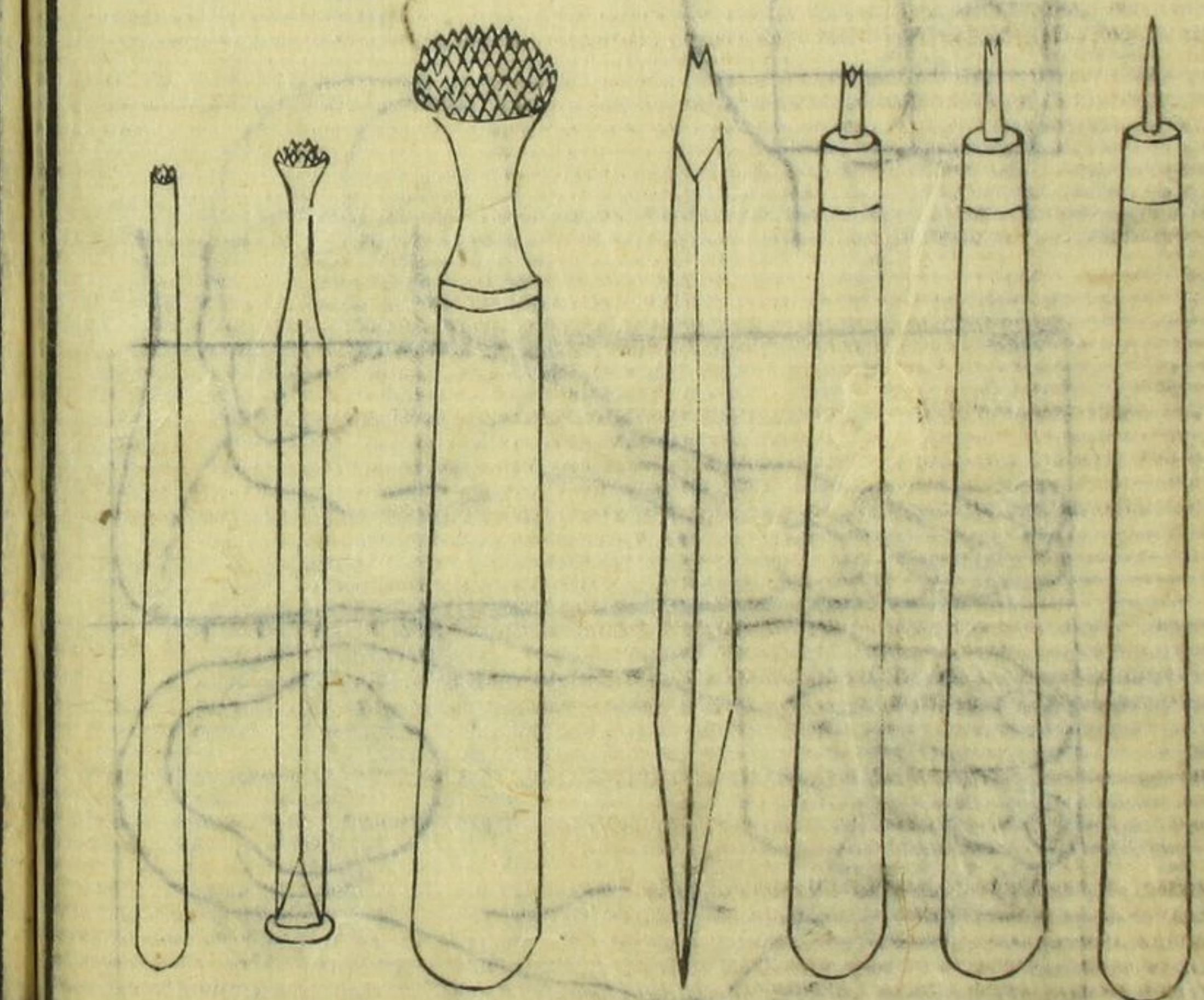


鏤板之具

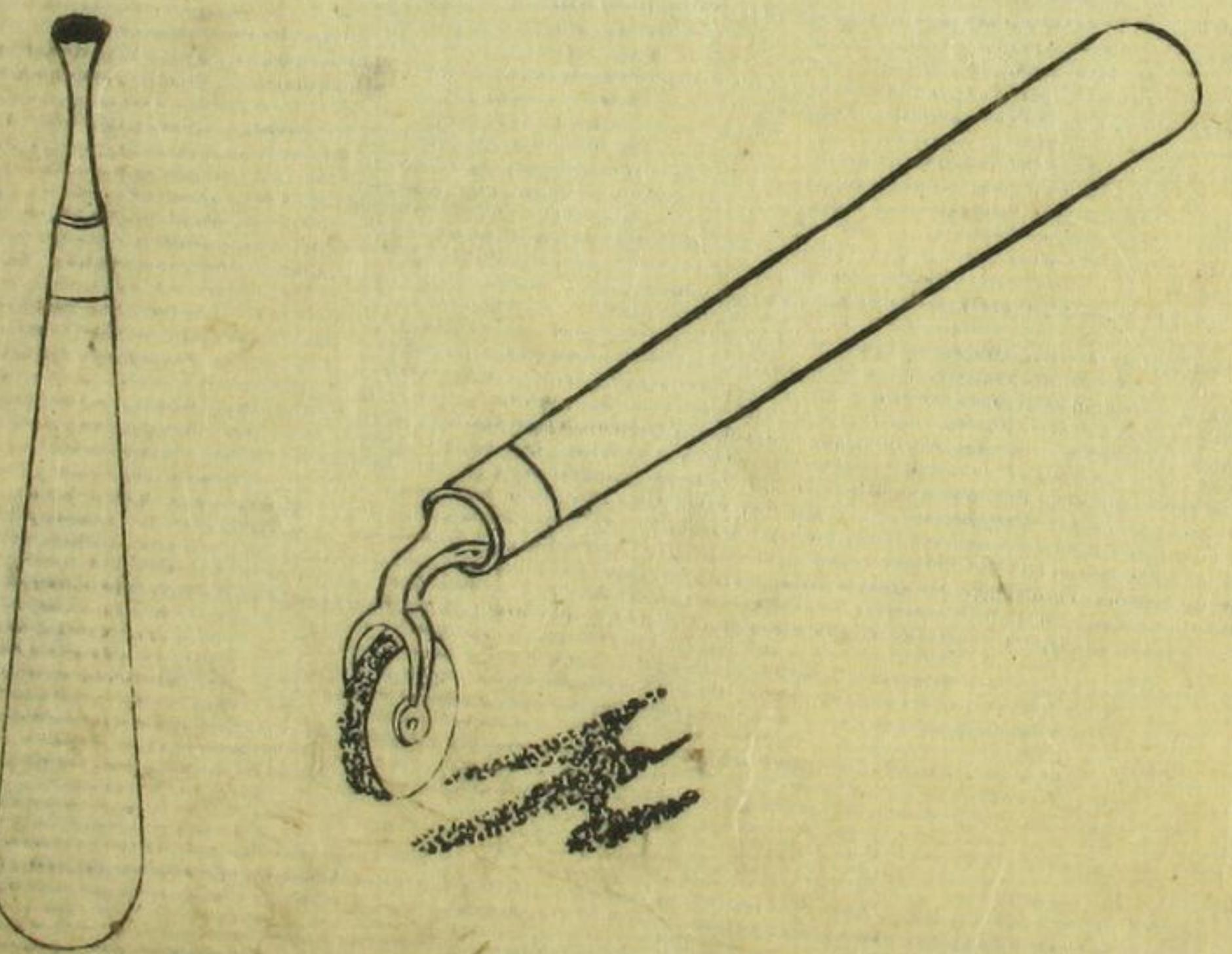
「雪イル」み較る所の器式あり

点穴
具

筋引
具



芥子目印
亦具



紅毛雜誌 卷之四

